

2020年3月期 第1四半期 決算ハイライト

(決算記者会見 配布)

2019年8月6日

株式会社 **クレスコ**

The background of the slide is a repeating pattern of blue and white waves, resembling a traditional Japanese 'nami' pattern. The waves are arranged in a grid-like fashion, with each wave consisting of several concentric semi-circles. The top and bottom portions of the slide are filled with this pattern, while the middle portion is a solid white rectangle containing the text.

① 決算のポイント

1.1. 売上高・利益 連結

[単位：百万円未満切捨]

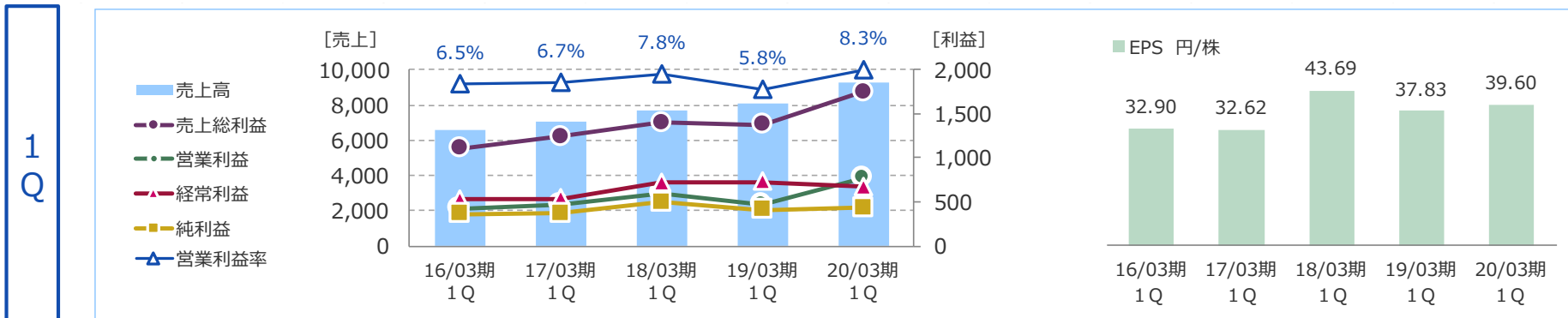
- 経営環境 … 景況感が不安定な中でも、IT投資は、依然プラス成長のトレンド。デジタル変革(DX)が、「攻めのIT投資」の更なる需要を喚起。

- 第1四半期は、前期末の受注残をベースに売上高が安定成長。品質管理と収益管理の徹底により、大きな不採算プロジェクトは発生せず、収益性が改善。開発人員不足の影響は、依然、拭い切れないものの、ニアショア・オフショア開発の活用で、カバー。

- 売上高 … 市場の変化に則した顧客ポートフォリオと事業体制が奏功し、11億32百万円の増収。(前年同期比 14.0%増)
- 営業利益 … 2億97百万円の増益(前年同期比 63.1%増)。営業利益率は、“5.8 % → 8.3%”と2.5%改善。
- 経常利益 … 金融商品の評価損の計上等により減益。

1 Q 累 計	18/03期		19/03期		20/03期		前年 同期比	対上期 進捗率
	売上高	売上総利益	営業利益	経常利益	純利益	EPS 円/株		
	7,659	1,400 (18.3%)	8,113	1,377 (17.0%)	9,245	1,743 (18.9%)	114.0%	50.1%
	597 (7.8%)	472 (5.8%)	719 (9.4%)	725 (8.9%)	770 (8.3%)	670 (7.2%)	163.1%	51.3%
	495 (6.5%)	413 (5.1%)	495 (6.5%)	413 (5.1%)	433 (4.7%)	433 (4.7%)	104.7%	38.8%
	43.69	37.83	43.69	37.83	39.60	39.60		

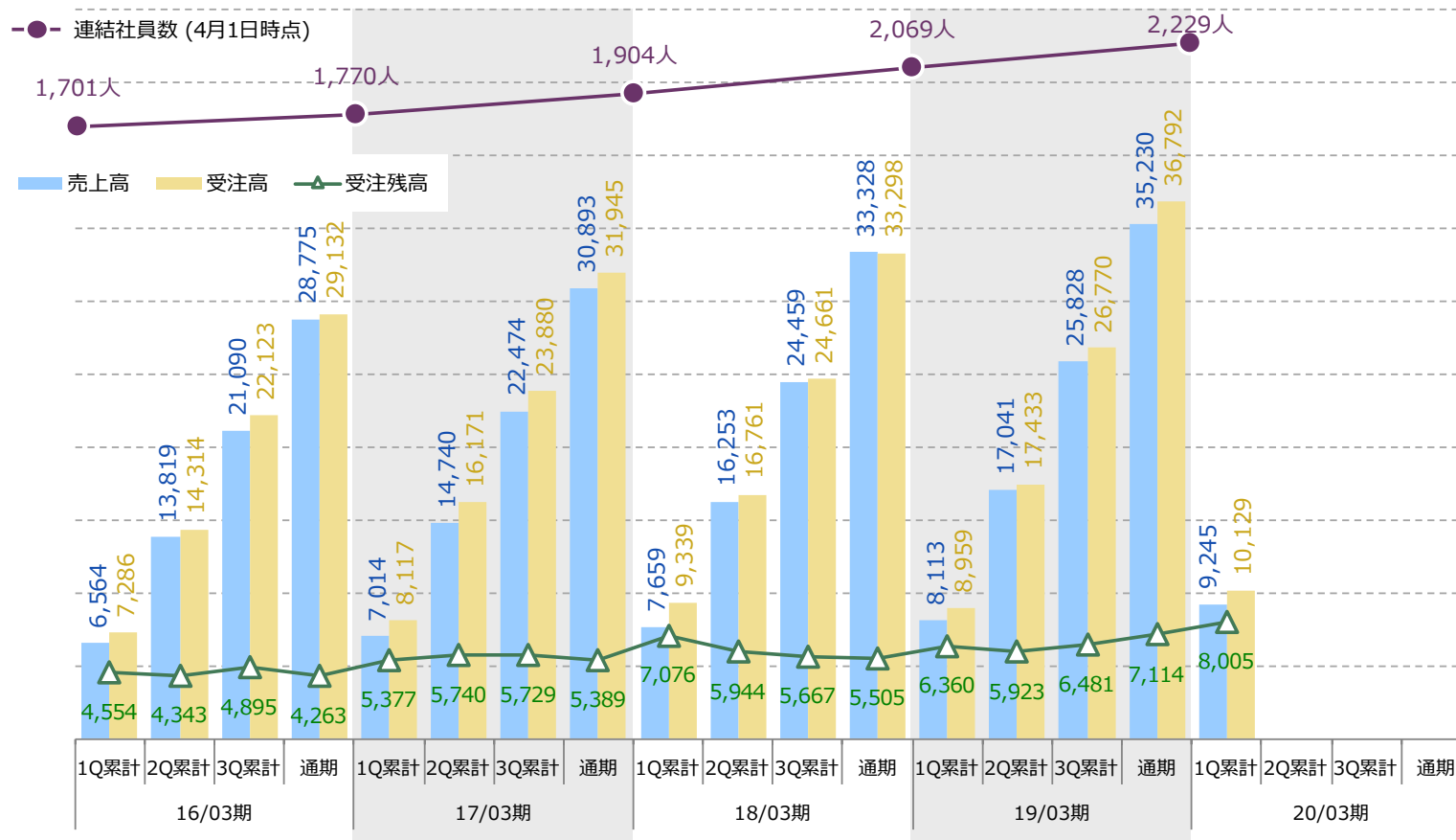
上期 業績 予想	20/03期 19/5/9 予想		前年 同期比
	売上高	営業利益	
	18,460	1,500 (8.1%)	108.3%
	1,704 (9.2%)	1,704 (9.2%)	99.0%
	1,117 (6.1%)	1,117 (6.1%)	103.8%
	102.1	102.1	



【注】 () 内の数字は各々の利益率を表します。
 【注】「純利益」は「親会社株主に帰属する四半期純利益」です。

[単位：百万円未満切捨]

- 顧客の引合いは、前期に引続き、攻めのIT投資やデジタル・トランスフォーメーション(DX)を背景に活況。
 - ソフトウェア開発 … 金融は改善傾向。既存顧客を中心に引合いが順調。(受注残：前年同期比 24.9%増)
 - 組込み型ソフトウェア開発 … 「カーエレクトロニクス」「情報家電・その他」の引合いが、順調。(受注残：前年同期比 30.3%増)
- ニアショア・オフショアによる開発体制の強化、生産性向上、グループ連携が、受注伸長の鍵。



<受注高>
 前年1Q累計比
 113.1%

<受注残高>
 前年同期比
 125.9%

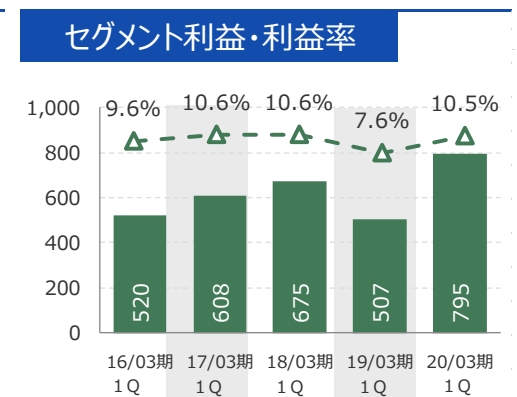
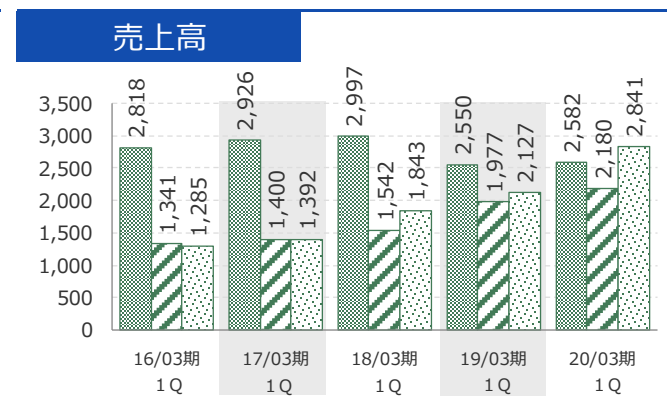
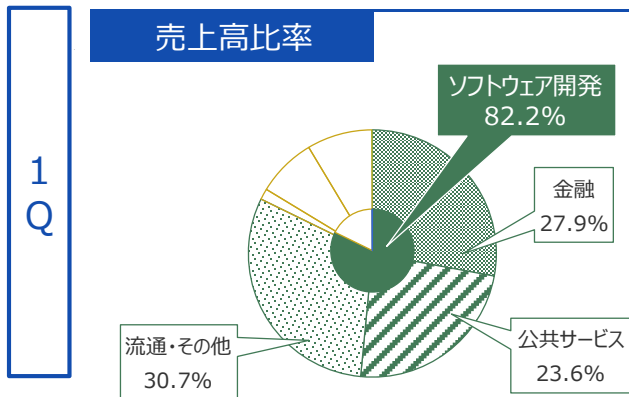
[単位：百万円未満切捨]

■ ソフトウェア開発

- IT投資の需要が活況。事業体制の強化、営業方針の見直し等を実行し、売上高は 14.3%の増収。
- 不採算プロジェクトの極小化および品質管理の強化に注力し、収益性が改善。セグメント利益は 56.7%増益。
- 前年度に実施したM&A(アルス、イーテクノ)による連結効果は、プラス材料。

- 金融 … 金融機関全体の投資意欲は回復基調。(前年同期比 31百万円増収)
- 公共サービス … 既存大口顧客のIT投資が拡大。(前年同期比 2億3百万円増収)
- 流通・その他 … 不動産向け案件が増加、子会社で受注増加。(前年同期比 7億14百万円増収)

		18/03期	19/03期	20/03期	前年同期比	
1 Q 累 計	ソ フ ト ウ ェ ア 売 上 高	金融	2,997	2,550	2,582	101.2%
		公共サービス	1,542	1,977	2,180	110.3%
		流通・その他	1,843	2,127	2,841	133.6%
	セグメント利益(率)		675 (10.6%)	507 (7.6%)	795 (10.5%)	156.7%



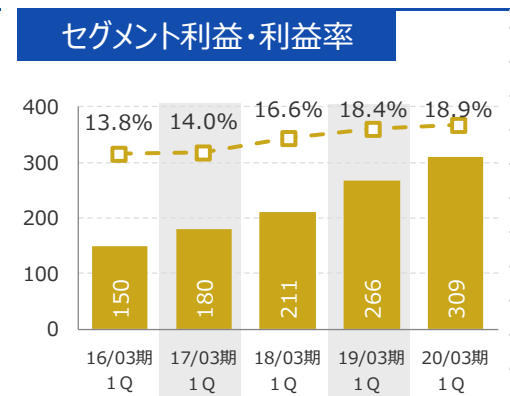
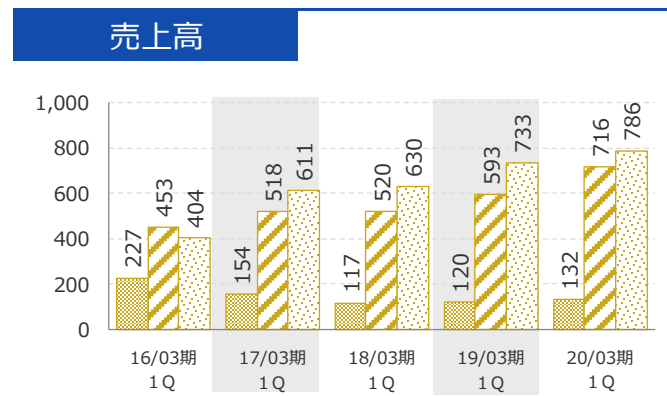
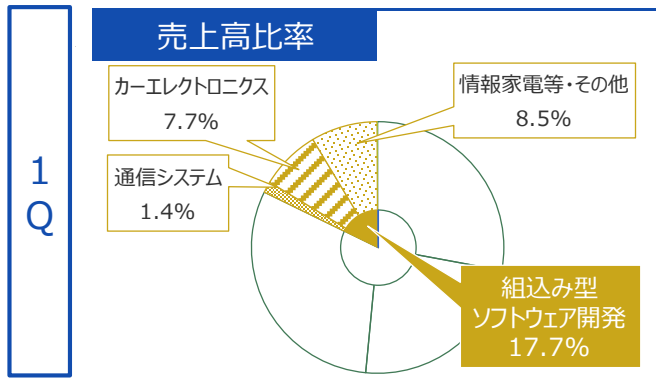
[単位：百万円未満切捨]

■ 組込み型ソフトウェア開発

- 主要顧客からの継続的な増員要請や基本契約の見直しの他、生産性改善の取組み、ニアショアを含む開発体制の強化が奏功し、売上高は 12.9%の増収、セグメント利益は 16.1%の増益。

- 通信システム … スマートフォン関連は微増。(前年同期比 11百万円増収)
- カーエレクトロニクス … 主力のインフォテインメント系が順調。(前年同期比 1億22百万円増収)
- 情報家電等・その他 … デジタル情報家電が順調。(前年同期比 52百万円増収)

		18/03期	19/03期	20/03期	前年同期比	
1 Q 累計	組 込 み 型	通信システム	117	120	132	109.6%
		カーエレクトロニクス	520	593	716	120.7%
		情報家電等・その他	630	733	786	107.1%
		セグメント利益(率)	211 (16.6%)	266 (18.4%)	309 (18.9%)	116.1%



The background of the slide is a repeating pattern of blue and white waves, resembling a traditional Japanese 'nami' pattern. The waves are arranged in a grid-like fashion, with each wave consisting of several concentric semi-circles. The top and bottom portions of the slide are filled with this pattern, while the middle portion is a solid white rectangle containing the text.

② 今期の見通し

[単位：百万円未満切捨]

- IT投資の見通しは、企業規模や業種、業態によって濃淡があるものの、クラウドやAI等の技術を利用した製品やサービスの導入を通じて、事業の変革を図り、価値創出や競争優位を確立するトレンドに大きな変化はなく、引合いは、引続き増加する見込み。
- 技術および品質面での更なる強化を図るとともに、AI、クラウド技術者の拡充教育をはじめ、他社とのアライアンス推進、オープンイノベーション・産学連携による新ビジネスの創出に注力し、質的、量的成長を目指す。

2Q累計	19/03期						20/03期	
	18/5/8 予想	前年同期比	実績	前年同期比	達成率	19/5/9 予想	前年同期比	
	売上高	17,300	106.4%	17,041	104.8%	98.5%	18,460	108.3%
売上総利益			3,067 (18.0%)	101.4%				
営業利益	1,480 (8.6%)	100.7%	1,405 (8.2%)	95.6%	95.0%	1,500 (8.1%)	106.7%	
経常利益	1,620 (9.4%)	96.0%	1,720 (10.1%)	102.0%	106.2%	1,704 (9.2%)	99.0%	
純利益	1,096 (6.3%)	94.7%	1,076 (6.3%)	93.0%	98.2%	1,117 (6.1%)	103.8%	
EPS 円/株	100.18		98.39			102.1		

通期	19/03期						20/03期	
	18/5/8 予想	前年同期比	実績	前年同期比	達成率	19/5/9 予想	前年同期比	
	売上高	35,500	106.5%	35,230	105.7%	99.2%	37,880	107.5%
売上総利益			6,673 (18.9%)	105.8%				
営業利益	3,280 (9.2%)	106.1%	3,207 (9.1%)	103.7%	97.8%	3,400 (9.0%)	106.0%	
経常利益	3,580 (10.1%)	102.5%	3,658 (10.4%)	104.8%	102.2%	3,813 (10.1%)	104.2%	
純利益	2,416 (6.8%)	109.7%	2,285 (6.5%)	103.8%	94.6%	2,416 (6.4%)	105.7%	
EPS 円/株	220.84		208.92			220.84		

【注】 () 内の数字は各々の利益率を表します。

【注】 「純利益」は「親会社に帰属する当期純利益」です。

[配当金総額：百万円未満切捨]

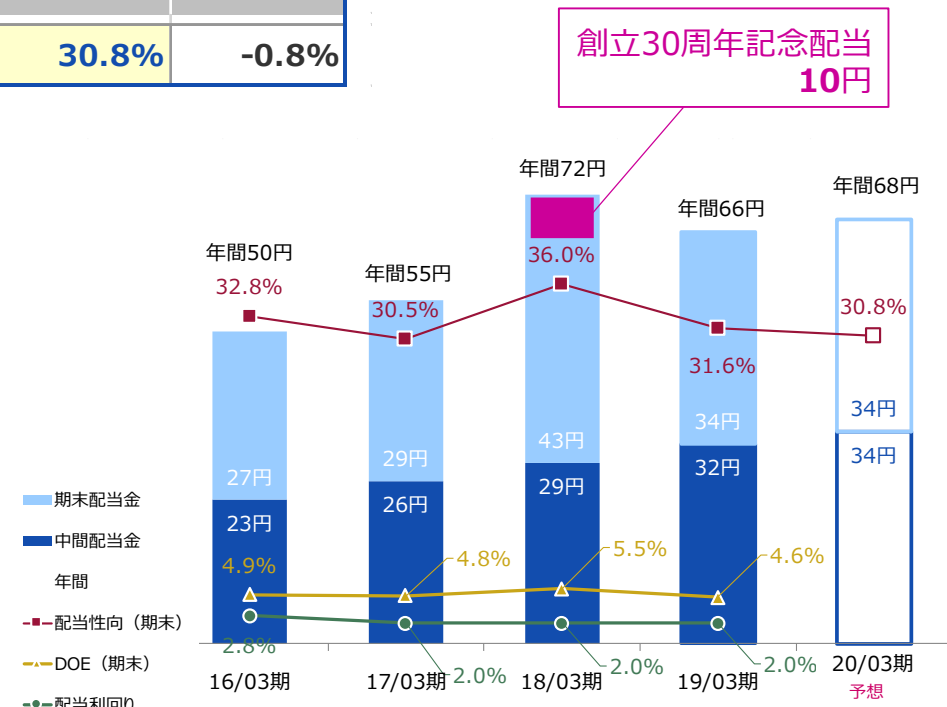
- 2019年5月27日に、配当方針の変更を実施。
- 2019年5月9日に発表した、年間配当金68円(中間34円、期末34円)に、**変更なし**

	17/03期	18/03期	19/03期	20/03期	
	実績	実績	実績	19/5/9 予想	増減
中間	26円	29円	32円	34円	2円
期末	29円	※ 43円	34円	34円	0円
年間	55円	72円	66円	68円	2円
配当性向	30.5%	36.0%	31.6%	30.8%	-0.8%
配当利回り	2.0%	2.0%	2.0%		
DOE	4.8%	5.5%	4.6%		
配当金の総額	623百万円	781百万円	722百万円		

※2018年3月期の期末配当は、創業30周年記念配当含む

株主還元方針

- 当社は株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と位置づけ、株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を維持することを基本方針としております。
- 特段の株主優待は行っておりません。
- 配当に関しましては、原則、連結経常利益をもとに、特別損益を零とした場合に算出される親会社に帰属する当期純利益の30%相当を目途に継続的に実現することを目指してまいります。



The image features a repeating pattern of blue and white stylized waves, resembling a traditional Japanese 'nami' pattern. The waves are arranged in a dense, overlapping grid. In the center of the white space, the text '【ご参考】' is written in a blue, sans-serif font.

【ご参考】

インバウンド需要の緩やかな拡大、底堅い内需と輸出の持ち直しが後押しし、
経営環境は拡大傾向が継続

- 6月の日銀短観
景況感が小幅悪化するなど、内外の経済は先行きの不透明感が拭いきれないものの、事業環境自体は、企業の「デジタル変革」が生み出す需要に支えられ、概ね良好に推移すると予測。IT投資の見通しは、企業規模や業種、業態によって濃淡があるものの、クラウドやAI等の技術を利用した製品・サービスの導入を通じて事業の変革を図り、価値創出や競争優位を確立するトレンドに大きな変化はなく、引合いは、引続き増加する見込み。
- 日本情報システム・ユーザー協会が実施の「企業IT動向調査2019」
47.6%の企業が2019年度の予算を昨年度に引続き「増やす」と回答。
- 企業の循環的な業績改善や「攻めのIT経営」を背景としたIT投資の活発化に加え、デジタル技術を活用したビジネスモデルの革新を推進する「デジタル変革」の潮流に乗り、システム開発の需要が確実。
- ITサービスのコモディティ化と低価格化が進む中、クラウドを活用したシステムを中心に市場は拡大し、IoT(Internet of Things)、AI(人工知能)/機械学習、運用自動化(RPA)といった先端技術のトレンドと相まって、投資意欲は一層拡大。
- 当社の足許の営業状況からも、お客様の投資意欲を窺うことができ、需要の更なる押上げを実感。

- 当社の主要セグメントにおいて特に成長が見込まれる、人材、旅行、物流、カーエレクトロニクス、情報家電の各分野は、「デジタル変革」の到来により、お客様層の裾野が更に拡大する局面にあり、当面の成長を見込む。
- 基幹系のシステム更改、新規サービス対応システム、新商品の組込みシステム、人材不足に起因する生産性向上を目的とするシステム(AI、RPA)、ハードウェア、運用のコスト削減を目的とするクラウドへの移行などは、有望なビジネスになると見込む。
- 当社グループがご提供するサービスは幅広い技術領域を有し、世の中のトレンドを概ね取込めるポジションにあり、あらゆる企業、団体、産業から「デジタル変革」のパートナーとして期待されている。



- 前期の教訓(不採算プロジェクト5件発生による約1億円の損失)を活かし、品質管理強化と生産性向上を軸に足固めをしつつ、成長に弾みをつける時期。
- 需要の拡大に伴い、人材の不足感は依然否めず、継続的な人材の獲得・育成、生産性向上、開発体制の強化は、優先課題。
- 「デジタル変革」をリードし、顧客がビジネスモデルの革新を通じて自らの成長を実感できる現実的な提案をスピーディに行うため、事業の柱であるソフトウェア開発事業、組込型ソフトウェア開発事業では、技術および品質の面から更に強化。
- 先端技術を積極的に取込み、顧客の成長に寄与するサービスおよびソリューションを充実。
- クレスコグループ各社が長年培ってきた営業力と経験を活かし、顧客の環境変化をいち早くとらえ、顧客のビジネスチャンスを支援する新規性と利便性を備えたサービスを開発するとともに、グループ内協業や他社とのアライアンスを含めた事業を展開。

- 「CRESCO Ambition 2020」、に沿った経営
- サービス品質の強化による質的成長
- リソースおよび技術戦略の強化による量的成長
- M&Aによる成長スピードの拡大

2016年4月始動の5ヶ年ビジョン

CRESCO Ambition 2020

Lead the Digital Transformation

～『クレスコグループ』はデジタル変革をリードします。～

挑戦する企業集団

洗練された技術力と確かな品質

ひとりひとりが輝く **クレスコ**

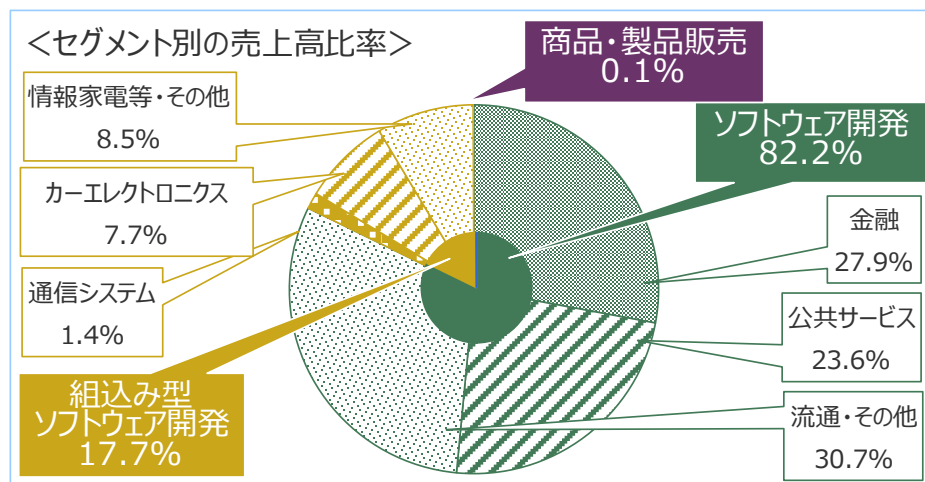
5ヶ年ビジョンによる継続課題

1. 鉄板品質の提供
2. 生産性の追求
3. リソース戦略の強化
4. 人材の採用と育成
5. 新技術の研究・開発
6. グループ連携の強化
7. 営業体制およびお客様とのリレーションシップの強化
8. 新規ビジネスの組成
9. コーポレートガバナンスの推進
10. 健康管理と働き方改革の推進
11. ダイバーシティへの取組み

	2016年3月期				2017年3月期				2018年3月期				2019年3月期				2020年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
クレスコ・イー・ソリューション 【※3】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
クレスコワイヤレス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
アイオス 【※6】【※10】【※12】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
クレスコ九州 【※13】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/	/
クレスコ北陸	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
科礼斯軟件（上海） 【※5】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
シーサー	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
クリエイティブジャパン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
エス・アイ・サービス 【※1】【※3】	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
メクゼス 【※2】【※8】【※9】	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
エヌシステム 【※4】	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
ネクサス 【※7】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●			
アルス 【※11】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●			
子会社総数	9	9	10	10	9	10	10	10	10	10	9	10	10	10	11	11	10			

- 【※1】 2015年4月1日付で「(株)エス・アイ・サービス」を子会社化
- 【※2】 2015年10月1日付で「メディア・マジック(株)」を子会社化
- 【※3】 2016年4月1日付で「クレスコ・イー・ソリューション」が「エス・アイ・サービス」を統合
- 【※4】 2016年9月1日付で「(株)エヌシステム」を子会社化
- 【※5】 2017年9月25日付で「科礼斯軟件(上海)」は清算結了
- 【※6】 2017年10月2日付で「アイオス」は「(株)アプリケーションズ」を子会社化（当社の孫会社）
- 【※7】 2018年1月12日付で「(株)ネクサス」を子会社化

- 【※8】 2018年3月12日付で「メディア・マジック」は「メクゼス」に商号変更
- 【※9】 2018年4月1日付で「メクゼス」は「アイオス 関西営業所」を統合
- 【※10】 2018年4月1日付で「アイオス」は「アプリケーションズ」を統合
- 【※11】 2018年10月1日付で「アルス(株)」を子会社化
- 【※12】 2018年11月1日付で「アイオス」は「イーテクノ(株)」を子会社化（当社の孫会社）
- 【※13】 2019年4月1日付で「クレスコ九州」を統合



セグメント	事業	分野
ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスアプリケーション開発 ・IT基盤システム構築 ・オリジナル製品・サービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・金融 (銀行、保険 etc.) ・公共サービス (旅行、人材、物流、航空、鉄道、電力、放送、医療 etc.) ・流通・その他 (小売、不動産、情報通信、製造 etc.)
組込型ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> ・組込型ソフトウェア開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信システム (携帯情報端末 etc.) ・カーエレクトロニクス (デジタルメーター、センターディスプレイ etc.) ・情報家電等・その他 (デジタル家電、医療機器、制御システム etc.)
商品・製品販売	<ul style="list-style-type: none"> ・子会社「クレスコワイヤレス」の商品・製品販売 	

- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値や将来展望は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業況や業績結果と大きく乖離するなど、本資料の内容とが異なる可能性もございます。予めご了承ください。

【 IRのお問合せ】 広報IR推進室
Mail : ir@cresco.co.jp
TEL : 03-5769-8058